

## 目次

- 第81回国際酸素製造者協会(IOMA)アルゼンチン・ブエノスアイレス総会へ参加・・・ 1
- 見学会報告 ～姫路安全スクール、ハマイ府中工場を訪問しました～ …… 4
- 特集：カーボンニュートラルな社会への挑戦  
ーオールイワタニで目指す脱炭素社会の実現ー (岩谷産業株式会社) …… 5
- SPring-8 見学研修実施 …… 8
- 見学会報告 ～日野自動車(株)古河工場見学研修を実施しました～ …… 9
- CGA Seminar “CGA Tech 24” …… 10
- 第18回MGR認定試験 …… 12
- 見学会報告～(株)ネリキのバルブ製造工場と新コスモス電機(株)のガスセンサ工場を訪問しました～ …… 13
- 第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会に出展 …… 14
- JIMGA会員制度について ～会員のメリット～ …… 15
- 在宅酸素火災予防キャンペーンのお知らせ …… 18
- ウェブサイト掲載お知らせ一覧ー2024年10月15日～2024年12月15日掲載ー… 20
- 気ままにコラム …… 22



## 第81回国際酸素製造者協会 (IOMA) アルゼンチン・ブエノスアイレス総会へ参加

2024年11月3日～5日に、第81回国際酸素製造者協会 (International Oxygen Manufacturers Association : IOMA) 年次総会が、アルゼンチン・ブエノスアイレスのFour Seasons Hotelで開催されました。世界の20か国から産業ガスビジネスに関わる経営者70メンバーが参加し、合計160名の参加がありました。JIMGA会員企業からは、4メンバー16名が参加し、JIMGAからは、澤木専務理事、羽坂が出席しました。

ブエノスアイレスは、人口は600万人 (周辺人口1,300万人) のアルゼンチンの首都で、パンパ大平原でのアンガス牛の飼育やマルベック種によるワインの生産が盛んな農業国です。最近では、EV用のバッテリーとして応用が進んでいるリチウムや銅等の鉱業が発展しており、工業ガスの需要も年々増えています。また、アルゼンチンタンゴの発祥の地で、1880年頃ヨーロッパの移民が港町ボカ地区で1部屋に4家族が居住するような貧困の中、ヨーロッパや中南米の文化が融合し、アルゼンチンタンゴが生まれたところでもあります。サッカーも盛んで、サッカー場が多くあり、サッカー界のMVPであるバロンドールを幾度も受賞したメッシの人形やポスターが至る所にあります。

### 国際委員会 (GC) とオフサイトレセプション (1日目)

11月3日8:00より、年次総会に先立って国際委員会 (Global Committee: GC) が行われ、岩谷産業(株)津吉取締役専務執行役員と齋藤部長、日本酸素ホールディングスの三木常務執行役員と久和野部長、エア・ウォーター(株)大塚取締役専務執行役員の代理で道谷執行役員、JIMGAから、澤木専務理事と羽坂が参加しました。2024年春の国際委員会会議で就任したMesserグループのBernd Eulitz議長により議事が進行されました。副議長として、LindeグループのOliver Pfannが就任することが承認されました。持続可能性指標のIHC (International Harmonized Council / 国際整合化委員会) 文書は、適用範囲としてScope3を含み入れた基準DRAFTが最終承認され、まもなく発行されることが確認されました。

IHCの基準作成プロジェクトは、新規プロジェクト3件、改訂プロジェクト5件、再確認3件の活動が開始されることが承認されました。また、1件のプロジェクトがリソースの問題から延期されることとなりました。IHC活動協会であるAIGA、CGA、EIGA、JIMGAに加え、MEGA (中近東ガス協会)、ANZIGA (オーストラリア・ニュージーランドガス協会) が、今年の8月開催された第55回IHCベルギー会議にオブザーバー参加し、今後のプロジェクト参加を検討していることが報告されました。PFAS (Per and poly-fluoroalkyl substances) の段階的な使用制限については、EUでの動向をガス業界で的確に把握し、対応していくことが確認されました。



IOMA GC会議 (Four Seasons Hotel Blas Room) : 1日目

水素エネルギー関連の活動については、ISO 197「水素技術」の基準について、関与するためのミラーグループをIHCとして組織化し、活動開始したことが報告されました。さらに、アンモニアの消費やCCU（Carbon dioxide Capture and Utilization）応用における炭酸ガスの回収等新たなガス応用が始まっており、それらの基準についてのギャップ分析（既存基準と必要な基準のギャップを分析）するよう要請がありました。



アルゼンチンタンゴを觀賞：1日目

夕食は、劇場へ移動し、生演奏に合わせてのアルゼンチンタンゴを觀賞しました。非常に優雅な、またアクロバティックなダンスでした。そこでは、1kg以上もあるステーキが提供されましたが、完食した方はいないようでした。

## 総会1日目とプレジデントバンケット(2日目)

11月4日、総会1日目がスタートしました。理事会メンバー紹介の後、IHCメンバーが、IOMAプレジデントであるAbydee Butler Moore氏（Butler Gas Products Co.）より紹介されました。恒例の全員の自己紹介が40分ほど行われ、講演へと進みました。Messerグループの会長Stefan Messer氏より、創業125年でその内、自身が手腕を発揮した45年を振り返ってグループの発展についてのキーノートスピーチがありました。1990年代の苦悩の時代を経て、2000年に入って、経営が安定し、さらにPraxairのアメリカビジネスを獲得したことによって、ビジネスが伸長したことを説明していました。続いて、アルゼンチンの政治や経済に関する講演が3件ありました。現大統領のハビエル・ミレイ氏の支持率がインフレの影響で低迷しましたが、最近では、インフレも収まりつつあり、経済指標は上向きであることが説明されました。また、ワイナリーが900以上あり、世界で5番目に多く、政策もワインの生産に力点を置いていることが説明されました。

夕方のカクテルディナーに続いて、プレジデントバンケット（ドレスコード：フォーマル）が



松山岳之氏（エア・ウォーター）が受賞  
中垣氏が代理受賞：2日目

行われました。ここでは、2024年度国際統合化功労賞として、JIMGAより推薦しました松山岳之氏（エア・ウォーター(株)）が受賞しました。残念ながら、本人はスケジュールの都合で参加できませんでしたが、中垣麗子氏（エア・ウォーター(株)）が、受賞スピーチを代読し、受賞に花を添えた授賞式となりました。食事後は、アルゼンチンタンゴの盛んな国での開催であったためか多くの参加者がダンスをしたように思います。

## 総会2日目(3日目)

総会2日目は、IOMAボードメンバーの新旧交代が、Abydee Butler Mooreプレジデントより紹介され、その後アルゼンチンのエネルギー市場や水素エネルギーについての講演がありました。続いて、国際委員会のBernd Eulitz議長から、IHCの活動状況について説明があり、新規トピックスについてIOMAメンバーのニーズに対応した活動をしているとのプレゼンテーションがありました。Air Productsの技術者からは、ASUの脱炭素についての技術説明がされました。唯一の女性登壇者で、アルゼンチン鉱業企業化会議理事長Alejandra Cardona氏より講演があり、EVで注目されているリチウムの埋蔵量を世界規模で有しており、その開発に積極的に取り組んでいることや、他の鉱業生品(銅等)の埋蔵量も多く、かなりの投資をしており産業ガス需要も、伸長していることが説明されました。最後に、AIの進展とビジネスに関する影響について講演がありました。



GC Bernd Eulitz議長による  
IHC活動状況説明：3日目



来年の第82回IOMA年次総会は、2025年10月18日～22日にフランス・リオンで開催される予定です。

(国際委員会 事務局 羽坂 智)



## 見学会報告 ~姫路安全スクール、ハマイ府中工場を訪問しました~

### 姫路安全スクール見学

超低温貯槽部会では、第3回の部会を10月15日に兵庫県にある姫路安全スクール(株)で行い、その後、同スクールの見学会を実施しました。

同スクールは、ガス物流ネット(株)が12年前に開校し、高圧ガスの事故ゼロを目標に2024年10月現在、約2,350名の産業ガス関係者に対して活きた実践型教育を提供しています。

コールドエバポレータ、タンクローリー、可搬式超低温容器、バルブ等のカットモデルは、その構造を把握するのに大変効果的であると感じました。

また、産業ガス各社の酸素・窒素・アルゴンの実際の充填ホース接続口の展示もあり、各社の誤充填防止に対する工夫を確認することができました。

この他にも、充填ホース内水分検証実験、液封・安全弁作動実験など、普段体験が困難な事象も体験でき、これらの経験が高圧ガスの事故防止に活かされることを参加者全員で再認識しました。



CEカットモデル



参加者集合写真

### ハマイ府中工場見学

容器技術部会では、10月16日に部会を東京都府中市の(株)ハマイ府中工場にて行い、その後、同工場の見学会を実施しました。

(株)ハマイは、1927年創業のバルブ専門メーカーとしてLPガス容器用バルブ、配管用ボールバルブ、高圧ガス容器用バルブ等、あらゆる顧客ニーズに対応する最適な製品を開発・製造しており、府中工場では、主に一般的な産業用高圧ガスや半導体製造に用いられる特殊高圧ガスに使用される高圧ガス用バルブを最適な材料選定と高精度加工により生産しています。

当日は、原材料の受入検査、精密な加工技術、製品の各種出荷前検査およびこれら工程の従業員毎のばらつきを排除する取り組みを見学し、高品質・高性能な顧客ニーズに応えるための厳格な工程は、大量生産の製品のみならず、少量多品種の製品にまで徹底されていることがわかりました。



参加者集合写真

(産業専門委員会 超低温貯槽部会・容器技術部会 事務局 山西 剛士)

JIMGAでは、運営方針の一つに「カーボンニュートラルな社会への挑戦」を掲げ、業界全体としてカーボンニュートラルの実現を目指しています。本号では、会員企業各社の脱炭素化に向けた取り組みをご紹介します「特集：カーボンニュートラルな社会への挑戦」（第2回）をお届けします。※本特集に記事掲載をご希望の場合は、JIMGA広報までご連絡ください。

## オールイワタニで目指す脱炭素社会の実現

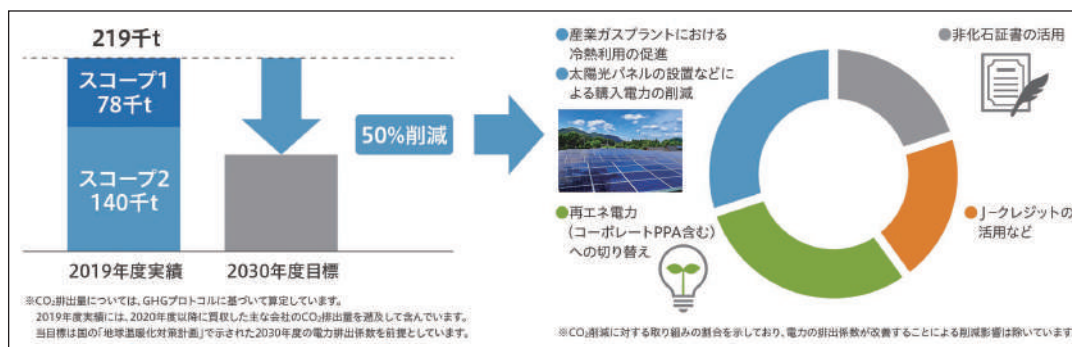
～岩谷産業株式会社～

当社グループは、2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを表明するとともに、国内で当社グループが排出するCO<sub>2</sub>について2030年度に、2019年度比で50%削減することを目指しています。産業ガスプラントでの冷熱利用や太陽光パネルの設置、コーポレートPPA<sup>※</sup>を含む再エネ電力への切り替え、CO<sub>2</sub>を環境価値化する取り組みなどを進め、2030年度の削減目標の達成を目指します。

また、2024年度より、社内の投資案件におけるCO<sub>2</sub>削減効果を金銭価値として見える化し、投資判断の参考とする「社内炭素価格制度」を導入するなど、脱炭素投資のさらなる推進に取り組んでいます。

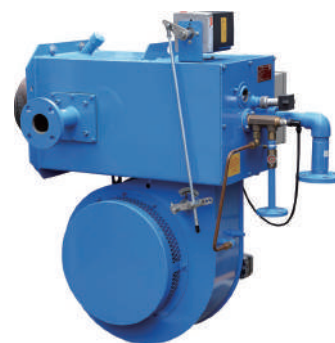
低・脱炭素化に向けた具体的な事業展開について次の通りご紹介します。

※コーポレート PPA (Power Purchase Agreement)：企業や自治体などの法人が発電事業者から再生可能エネルギーを長期に購入する契約



### 1. 工業炉のCO<sub>2</sub>削減に貢献する「水素混焼バーナー」

水素混焼バーナーは、工業炉を持つメーカーのCO<sub>2</sub>削減への有効な手段となります。現在稼働中の工業炉を活用し、バーナーを付け替えるだけで、従来の燃料に対して0～100%の任意の比率で水素の混焼ができ、工業炉の転換に比べて短期間での導入が可能です。2024年3月に水素混焼バーナーの1号機を納入し、さらに販売を加速するために、2024年5月に中央研究所内に実機を設置し、お客さまからの要望に対する実証実験、水素混焼におけるさまざまなデータ取得の体制を整えています。



水素混焼バーナー

## 2. さらにCO<sub>2</sub>排出量を抑えた「ハイドロカット®シリーズ」の新商品を発売



ハイドロカット®

各種鋼材の切断に加え、ろう付け、ガス圧接などで使用されるアセチレン（C<sub>2</sub>H<sub>2</sub>）は燃焼時にCO<sub>2</sub>を排出します。当社は、代替ガスとして、水素とエチレンの混合ガス「ハイドロカット®シリーズ」の販売を行っています。「ハイドロカット®60」の特徴は、アセチレン使用時と比較して84%のCO<sub>2</sub>排出量を削減できることや、輻射熱が小さく快適に作業でき、逆火が起こりにくいため安全性が高いことなど、現場の課題解決につながる点です。多様なメリットと技術サポートを通じて、さまざまな分野で利用されています。さらに、2023年にはプロパンに代わる切断用燃料ガスとして、水素の混合比率を高め、CO<sub>2</sub>排出量をさらに抑えた「ハイドロカット®90」の販売を開始しました。

## 3. 当社の技術を生かしたアンモニア混焼実証設備の提案

石炭などの従来の化石燃料にアンモニアを混ぜることにより、CO<sub>2</sub>排出量を抑制する実証実験が各社で行われています。当社ではこれまで培ってきた技術を生かし、プラントの設計から機器納入、また、その運用まで、お客さまのニーズに合わせた提案を行っています。特にアンモニアの貯留、毒性のあるアンモニアの除害装置の開発などには、国内大手発電所で脱硝用アンモニア供給設備のシェア70%を有する当社の知見が活用されています。将来的にはCO<sub>2</sub>排出量をゼロにするアンモニア専焼に向けた設備提案を視野にしています。



アンモニア混焼用液化アンモニア貯槽

## 4. 中央研究所のカーボンニュートラル化を推進

当社の中央研究所では2030年のCO<sub>2</sub>排出量削減目標を2019年度比100%と定めています。2023年にはパナソニック製純水素型燃料電池（5kW）を20台連結させた100kW規模の発電設備を設置し、CO<sub>2</sub>排出量の削減率は2019年度比40%に達しています。今後は、①窓ガラスを

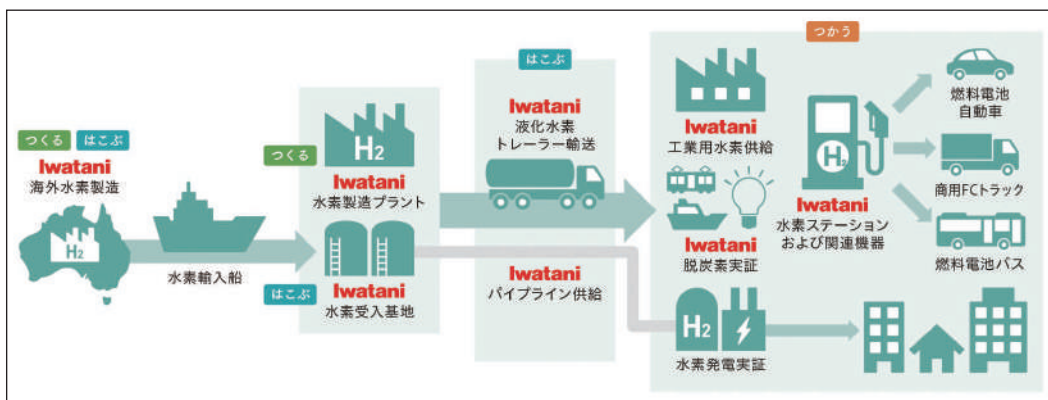


中央研究所に導入した純水素型燃料電池

含めた壁面などへの太陽光パネルの設置、②研究所内で使用しているLPガスの一部をグリーンLPガス化、③燃料電池に使用する液化水素の冷熱利用、④燃料電池の排熱回収利用などの取り組みを進めていきます。これまで利用されてこなかった液化水素のガス化時に生じる冷熱を熱交換器で回収する技術の実証実験を行っており、実現すれば研究所内の空調、実験などに使用する冷却水への活用が可能となります。

上記の取り組みのほか、水素エネルギー社会の実現に向けて、水素を「つくる」、「はこぶ」、「つかう」という観点から、サプライチェーン全体にわたる取り組みを進めています。特に、CO<sub>2</sub>フリー水素サプライチェーンの本格的な社会実装に向けて、グリーンイノベーション基金からの助成を受け、大規模な水素の液化・輸送技術を世界に先駆けて確立し、水素製造・液化・出荷・海上輸送・受入までの一貫した国際間の液化水素サプライチェーン実証を行うプロジェクトに参画しています。

長年培った圧縮水素、液化水素のハンドリング技術、国内唯一の液化水素サプライヤーとして供給ネットワークを最大限に生かしながら、川上から川下までのグローバルサプライチェーンを構築していきます。



水素を「つくる」、「はこぶ」、「つかう」という観点から、サプライチェーン全体にわたる取り組みを進めています。

また、2025年開催の大阪・関西万博において国内初となる水素燃料電池船「まほろば」の旅客運航を予定しています。水素燃料電池船は従来の内燃機関船と違い、走行時にCO<sub>2</sub>や環境負荷物質を排出しない高い環境性能を有するだけでなく、においや騒音がなく、振動の少ない優れた快適性を実現する交通手段です。「まほろば」を海上の動くパビリオンと位置付け、世界各国からの来場者到大阪・関西万博会場までの移動を特別な体験に変えるとともに、水素エネルギーの魅力の世界に発信することを目指しています。



水素燃料電池船「まほろば」

産業ガス分野以外においても、CO<sub>2</sub>を環境価値化する取り組みやグリーンLPガスの開発、バイオマス燃料の供給など、オールイワタニでの低・脱炭素化に向けた取り組みを進めています。  
(岩谷産業株式会社)

## SPring-8 見学研修実施

ヘリウム技術部会と近畿地域本部との共同研修会として総勢19名にて10月8日に兵庫県にある、大型放射光施設SPring-8の見学研修会を実施しました。

### SPring-8とは

SPring-8とは、兵庫県の播磨科学公園都市にある世界最高性能の放射光を生み出すことができる大型放射光施設です。放射光とは、電子を光とほぼ等しい速度まで加速し、磁石によって進行方向を曲げた時に発生する、強力な電磁波のことです。SPring-8では、この放射光を用いてナノテクノロジー、バイオテクノロジーや産業利用まで幅広い研究が行われています。



©2024 Airbus, Google, Landsat / Copernicus, Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO ©2024 Airbus, CNES / Airbus, Maxar Technologies, 地図データ©2024

今回、見学させていただいたのは、SPring-8（大型放射光施設）とSACLA（X線自由電子レーザー施設）です。委員の方々は、説明員の方に積極的に質問し、また施設内の液化窒素や液化ヘリウムを使用している機器には、特に興味深く見学しました。説明員の方は、わかりやすいご説明の上、質問にも丁寧に応じていただき、また、施設スタッフの方々にもご親切に対応いただき感謝です。

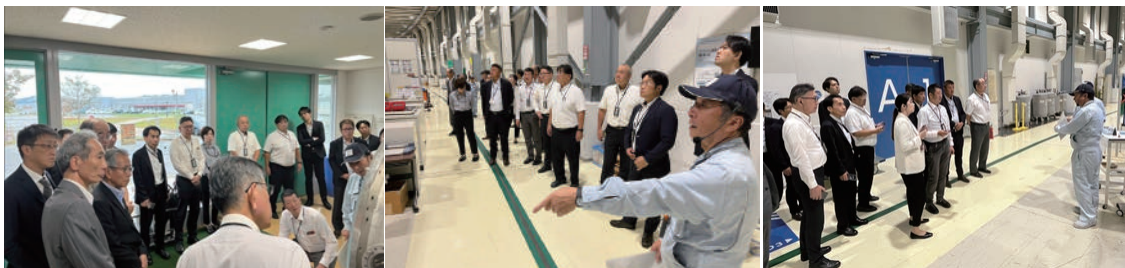
委員の方々は、新たな見識を得ることができ、また地域の委員の方々とも交流を図ることができて、大変、有意義な研修見学会になりました。



SPring-8について、詳しくは以下URLをご覧ください。

[http://www.spring8.or.jp/ja/about\\_us/](http://www.spring8.or.jp/ja/about_us/)

(産業専門委員会 ヘリウム技術部会 事務局 田中 克幸)



見学研修の様子

## 見学会報告 ~日野自動車(株)古河工場見学研修を実施しました~

物流部会は11月18日に茨城県にある、日野自動車(株)古河工場の見学研修会を実施しました。

日野自動車(株)古河工場は、茨城県古河市にある日野自動車のグローバルマザー工場です。敷地面積約850,000㎡の広大な敷地に、最新鋭の生産ラインと生産技術を兼ね備えた複数の工場建屋で構成されています。



日野自動車(株)古河工場

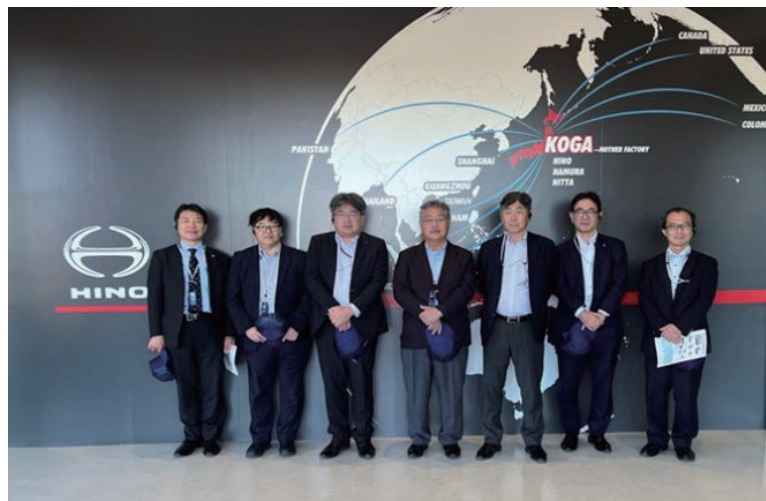
今回、見学させていただいたのは、一番大きな建屋の「車両組立工場」です。敷地内の他の建屋工場や他工場で製造されたパーツやエンジン、シャーシ、キャブ（運転台）やタイヤなどがここに集約されて、組立て、各種検査を経て完成される最終工程をつかさどる工場です。

委員の方々は各組立工程に興味深く見学し、特に検査工程に注目していたように思われました。場内では、『AGV』と呼ばれる無人搬送車がパーツを搬送している一方、『カラクリ』と呼ばれる、レールを用い傾斜を利用して電力等を使わず部品を搬送する設備なども採用されており、環境にも配慮した工場であることが印象的でした。

工場内は、冷暖房完備で働く人に優しい配慮がなされており、また、近隣の小学校や住民に向けた様々なイベントが実施されているとのことでした。安全に関しては、ヒヤリハットやインシデントが世界各国で共有され、周知される仕組みになっているそうです。

説明員の方には、ご多忙の中、わかりやすいご説明の上、質問にも丁寧に応じていただき、ご親切な対応に感謝いたします。委員の方々は、新たな見識を得ることができ、また委員間の交流を深める事ができて、大変有意義な研修見学会になりました。

(環境・安全委員会 物流部会 事務局 田中 克幸)



## CGA Seminar “CGA Tech 24”

アメリカCGA（Compressed Gas Association（圧縮ガス協会））主催による、セミナー「CGA Tech 24（Where Safety Meets Innovation）」がアメリカ・テキサス州ヒューストン郊外のホテル（The JW Marriott Houston by The Galleria Hotel）で10月28日～30日の3日間にわたり開催されJIMGAとして参加しました。

参加者は、アメリカを中心にヨーロッパ、アジア各国から、また、ガスメーカーだけでなく、ガス関連機器メーカー、建設業者、設備関連メーカー、大学など多岐にわたる約200名以上が参加し、各関係者の関心の高さを実感しました。



セミナーの大きな目的は『技術的な知識の共有、ネットワーキング、および重要な安全に関する議論の促進』です。セミナーは、「水素」、「ASUプラント」、「特殊ガス」のセッションに分かれて実施されました。それぞれのセッションの共通テーマは、「安全」です。セミナーは、セッションごとにそれぞれ3つの部屋に分かれ実施されました。各テーマに沿って2日間で21講義×3セッションのプレゼンテーションやパネルディスカッションなどがあり、参加者はそれぞれのセッションに分かれ受講しました。

私は、水素セッションに参加しました。内容は、ガスメジャー（Air Liquide、Air Products、Linde）を中心に、ガス関連機器会社（CHART、ROTAREXなど）また、設備、配送、建屋に関する会社や大学の研究関係者など、様々な視点からの水素の安全対策等に関する様々なプレゼンテーションが行われました。「米国と欧州の水素に関する展望」というテーマでパネルディスカッションも行われ、大変盛況でした。

水素における問題点やそこに潜む危険は世界共通です。プレゼンテーションではインパクトのある水素の燃焼実験の動画が紹介され、また様々な視点から、水素の危険性を分析し、事故予防対策、安全システムおよびメンテナンス、さらに取り扱いの注意点など様々な要素や設備、テクニックについてソフト面、ハード面と多岐にわたり紹介がありました。



セミナー風景と会場ロビー（上2点）と休憩中の様子と一日目の夜のレセプション（下2点）

3日目は、CGA会員による「水素技術委員会」が開催されオブザーバー参加しました。水素社会実現に向けて、新たな自主基準を策定する必要性を認識し、ワーキンググループ（WG）を立上げる議論などが話し合われました。各委員が積極的にWGに参加する意欲を見せていたのが印象的でした。

“コスト削減”、“効率化”、“節約”は、水素社会実現に向けての重要課題ではあるが、『安全』を疎かにして、万が一、大事故が起こってしまったら水素社会実現にブレーキがかかります。安全は、最優先課題として位置付けなければならず、JIMGAとしてCGA、EIGA等と協力して安全性・信頼性の向上に、より一層寄与していく必要があると改めて認識しました。

本セミナーについて、詳しくは下記URLをご覧ください。

CGA Tech 24 URL :

<https://web.cvent.com/event/bfa1f2b5-cf2b-4b78-9fd6-4d8f8bd2b459/websitePage:74de4d39-4d1e-4f86-bffc-fc9544fe6ae0>

(産業専門委員会 水素技術部会 事務局 田中 克幸)



見学に訪れたヒューストン宇宙センターの様子（上3点）敷地内にはガスヤードがありました（下2点）

## 第18回MGR認定試験

第18回MGR認定試験を去る2024年12月1日（日）に全国5会場（札幌・仙台・東京・大阪・福岡）で実施しました。受験者数は以下のとおりで、昨年の156名から8名増加しました。3科目すべてに合格した方（科目免除と過去の科目合格を含む）をMGRに認定いたします。認定証はMGR管理者宛に2025年4月から発送を開始する予定です。

### 試験の実施状況

※（再 ）は全受験者数のうち再受験者数

試験科目	試験時間	受験者数	欠席者数
医療ガス	11：00～12：00	139名（再 15）	5名
制度・法令	13：00～14：00	148名（再 26）	7名
疾病と治療	14：20～15：20	148名（再 26）	6名
合計		164名（再 40）	7名

### 過去の試験合格者数（2007年度～2023年度）

回数・年度	合格者数※	合格率
第17回（2023年度）	110名	70.5%
第16回（2022年度）	83名	59.3%
第15回（2021年度）	120名	67.4%
第14回（2020年度）	83名	60.6%
第13回（2019年度）	82名	53.6%
第12回（2018年度）	92名	58.2%
第11回（2017年度）	184名	82.9%
第10回（2016年度）	134名	57.5%
第9回（2015年度）	130名	62.8%
第8回（2014年度）	150名	62.2%
第7回（2013年度）	121名	55.0%
第6回（2012年度）	174名	74.4%
第5回（2011年度）	214名	92.6%
第4回（2010年度）	317名	89.2%
第3回（2009年度）	605名	89.9%
第2回（2008年度）	997名	89.0%
第1回（2007年度）	785名	86.0%

### 試験結果の通知

MGR管理者に通知するほか、合格者の受験番号（下5桁）をJIMGAウェブサイトMGRのページに掲載いたします。

（教育事業委員会 MGR部会 事務局）



東京会場の様子

## 見学会報告～(株)ネリキのバルブ製造工場と新コスモス電機(株)のガスセンサ工場を訪問しました～

9月11日と9月12日、特殊ガス技術部会は株式会社ネリキ神戸工場と新コスモス電機株式会社コスモスセンサセンターを訪問しました。

### |(株)ネリキバルブ製造工場の見学

9月11日に見学した(株)ネリキの工場は、神戸市の先端技術企業が集まる西神ハイテクパーク内に立地していました。

神戸工場は1991年6月に竣工、母屋（事務所棟）と離れ（工場1～5棟 ※3は欠番）という独特な呼称の建屋構成で、主に高圧ガス容器のバルブを製造しています。特にビール用炭酸ガスボンベに装着されている容器バルブ（ブランド名『EYE-valve』）は残量表示付きの機能がヒットし、高いシェアを持っているとの説明がありました。

独創的な商品の開発と加工・組み立ての自動化が進められている製造現場、KHK認定検査専用ブースと品質管理部門を見学し、高圧ガスを利用するためには必須の容器バルブは高精度で安全に配慮されて製造されていることを学びました。



母屋（事務所棟）

### |(株)新コスモス電機(株)コスモスセンサセンターの見学

9月12日に見学した新コスモス電機(株)コスモスセンサセンターは兵庫県三木市に立地し、大阪からJRで約45分の三田（さんだ）駅から車で約10分移動した森林に囲まれた静かな環境の中にありました。

2014年7月に設立し、ガス漏洩検知器に組み込まれるセンサを専門に製造する拠点で、センサの製造、検知器の組み立て、試運転調整を行っており、ガス漏洩検知器を出荷するまでの一貫生産を行う拠点です。センター内の製造工程には室内の空気清浄度を意識したゾーンがあり、精密機械を取り扱う環境として配慮された設計となっていました。

ガス漏洩検知器はガスの製造と消費現場の安全を守る必須アイテムですが、新コスモス電機では家庭向けのCO検知+火災報知器一体型商品（ブランド名『PLUSCO プラシオ』）にも注力しているという説明がありました。

センサ製造に微細加工の技術を導入し、家庭用検知器の電池寿命を延ばすなど先進技術にも取り組んでいる事業所でした。（産業専門委員会 特殊ガス技術部会 事務局 長沢 修二）



ショールーム



エントランス

## 第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会に出展

11月15日(金)～16日(土)の2日間、名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）で開催された第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会にて、JIMGAは在宅酸素療法における火気取扱いの注意をテーマに展示ブースを出展しました。

開会式において近藤会長（公立陶生病院副院長）は、今回の集会メインテーマ「つなぐ～ニューノーマル～」について、「ポストコロナ社会におけるプレコロナ時代とは異なる新常态の探究と、本学会が医師のみならず看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で構成されていることから、職種間を“つなぐ”、各種団体・学会、さらには知識・技術を“つなぐ”を意識したとコメントされました。

また、来場者数は2日間で会場参加者が1,837名、全体で2,229名と発表されました。

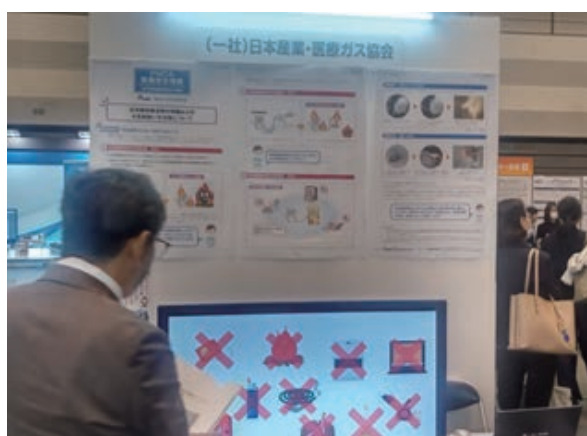
JIMGAブース来場者には医療現場で活躍されている関係者が多く、医療機関と在宅酸素療法事業者との連携、平常時や災害時の対応、事業者が抱える問題など活発な意見交換が行われ、これからの協力関係を深耕する有意義なイベントとなりました。

第35回日本呼吸ケア・リハビリテーション学術集会は、2025年10月24日～25日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催されます。

（医療専門委員会 在宅酸素部会 事務局 長沢 修二）



会場入口



JIMGAブース



近藤会長挨拶



展示会場全景

## JIMGA会員制度について～会員のメリット～

JIMGAでは、会員の皆様へ向けたさまざまな会員メリットをご提供しています。前号に引き続き、主なメリットについてご説明します！



前回もいろいろなメリットがあったね！  
今回も楽しみ♡

今回はその3とその4をご紹介しますね！



### JIMGA会員のメリット その3 – 会員限定ダウンロード図書の利用 –



JIMGAでは、関連法改正に対応したJIMGA基準・指針、また会員の皆様から寄せられたヒヤリハットをまとめた事例集等を多数発行しています。JIMGAの技術情報が詰まったこれらの図書は、会員限定でウェブサイトより無料ダウンロードが可能です。

JIMGA会員企業の従業員の方であればご自身のメールアドレスを会員登録いただくことで、ダウンロードいただけるようになります。是非ご活用ください。本誌では特にこれまで多くの会員の皆様にご利用いただいている図書を中心にをご紹介します。



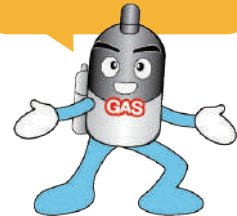
産業ガス関連では、充填所、貯蔵所に関する指針や基準、また各種ガスのヒヤリハット事例集をご活用いただいています。

産業ガス関連のJIMGA基準・指針は以下URLよりダウンロードが可能です。（会員ログインのうえご活用ください）

<https://www.jimga.or.jp/publication/books/index.php?c=002002&department=1&format=1>

下記はダウンロード可能な出版物の一部です。ダウンロード可能な出版物一覧は上記URLよりご覧ください。

産業ガス関連だけで150種類以上あるよ



	タイトル	基準番号	種別
産業	高圧ガス充填所/貯蔵所の新設/更新に関する指針	JIMGA-T-S/117/22	JIMGA基準・指針
産業	CE設置事業所・ローリ運行事業所関係基準	JIMGA-T-S/11/21	JIMGA基準・指針
産業	リスクアセスメント実施例(充填所)	JIMGA-T-S/111/19	JIMGA基準・指針
産業	コールドエバポレータ(CE)日常巡回点検記録表の記載要領	JIMGA-T-S/11/04付属書 JIGA-T-S/24/06付属書	JIMGA基準・指針
産業	可搬式超低温容器取扱い基準	JIGA-T-S/15/23	JIMGA基準・指針
産業	ヒヤリハット事例集(特殊材料ガス編)	JIMGA-T-S/49/08	ヒヤリハット
産業	ヒヤリハット事例集(酸素編)	JIMGA-T-S/44/07	ヒヤリハット
産業	ヒヤリハット事例集(酸欠編)	JIMGA-T-S/54/08	ヒヤリハット
産業	ヒヤリハット事例集(労働災害編)	JIMGA-T-S/86/13	ヒヤリハット
産業	ヒヤリハット事例集(水素編)	JIMGA-T-S/89/14	ヒヤリハット
産業	ヒヤリハット事例集(炭酸ガス編)	JIMGA-T-S/103/16	ヒヤリハット

医療ガス関連では、品質標準書・周知文書等を以下ウェブサイトにて文書・基準類のページよりダウンロードが可能です。

[https://www.jimga.or.jp/business/bunsho\\_kijunrui/](https://www.jimga.or.jp/business/bunsho_kijunrui/)

	タイトル	基準番号	種別
医療	日本薬局方二酸化炭素 製造販売変更書作成の手引き	JMG-TEC0001	文書・基準類
医療	周知文書「医療用高圧ガスの取扱いは慎重に！」	JMG-TEC1001	文書・基準類
医療	周知文書「酸素ガス取扱い上の注意」	JMG-TEC1002	文書・基準類
医療	周知文書「液化亜酸化窒素(笑気ガス)取扱い上の注意」	JMG-TEC1003	文書・基準類
医療	周知文書「二酸化炭素(液化炭素ガス)取扱い上の注意」	JMG-TEC1004	文書・基準類
医療	周知文書「酸化エチレン殺菌ガス取扱い上の注意」	JMG-TEC1005	文書・基準類
医療	周知文書「液化窒素取扱い上の注意」	JMG-TEC1006	文書・基準類
医療	周知文書「医療ガスマニフールド(ボンベ)の取扱い上の注意」	JMG-TEC1007	文書・基準類
医療	周知文書「医療ガスマニフールド(LGC)の取扱い上の注意」	JMG-TEC1008	文書・基準類
医療	周知文書「医療ガス供給装置(CE)取扱い上の注意」	JMG-TEC1009	文書・基準類
医療	周知文書「医療ガスアウトレット取扱い上の注意」	JMG-TEC1010	文書・基準類

上記はダウンロード可能な出版物の一部です。ダウンロード可能な出版物一覧は上記URLよりご覧ください。

## JIMGA会員のメリット その4 - 出版物・物品の安価購入 -



JIMGA会員は、産業ガス・医療ガスに特化した出版物、医療ガス関連の物品を安価な会員価格で購入できます。新刊または新商品、これらのリニューアルについてもタイムリーにお知らせします。冊子として購入可能な出版物は以下のとおりです。

発行部門	タイトル
産業・医療	高圧ガス容器配管用テールゲートリフター付車両に関する特別教育（印刷資料）【会員限定】
産業・医療	高圧ガスハンドブック 第4次 改訂版
産業・医療	JIMGA安全DVD「酸欠を防止しよう！ ～身近なところに潜む酸欠リスク～」・「酸素による事故事例と安全対策 ～酸素の危険性～」2枚セット
産業・医療	高圧ガス充填工場及び貯蔵所の自然災害対策指針
産業	液化炭酸ガス保安テキスト(合本版)
産業	水素ガス集結容器集合配管管理基準
産業	液化炭酸ガスCE設置事業所・ローリ運行事業所 関係基準
産業	高圧ガス保安法の要点（液化炭酸ガス）
産業	原料炭酸ガス製造フロー概説
産業	水素ガスハンドブック
医療	医療用ガス&設備の自然災害対策の手引き
医療	酸化エチレン滅菌ガスハンドブック
医療	医療ガス設備点検整備記録帳作成指針
医療	医療ガス・供給機器の取扱いについて
医療	医療ガス設備工事 既設配管停止工事 施工指針
医療	医療ガス設備交換サイクル10部セット
医療	MGR研修テキスト2023年版VOL.1、2セット
医療	医療ガス設備設計指針
医療	JIMGA在宅酸素医療火災防止啓発DVD【2022年度版】
医療	在宅酸素療法用の液化酸素装置を安全に使っていただくために（周知文書）10部セット【会員限定】
医療	医療ガス消費者のためのヒヤリ・ハット事例集 在宅編
医療	医療ガス消費者のためのヒヤリ・ハット事例集 病院編



上記は販売品の一部です。出版物一覧は下記URLよりご覧ください。

また、医療ガス関連の物品では、会員限定品として、封キャップ (W-22)、各種警告ラベル、各種納入月ラベルの購入が可能です。刻印アルミ箔シール (ラミネートあり/なし) は会員価格にてご提供しています。物品のご購入は以下URLをご覧ください。

<https://www.jimga.or.jp/publication/>



(企画・事業グループ 事務局)

## 在宅酸素火災予防キャンペーンのお知らせ

在宅酸素療法に使用する酸素供給装置は、酸素が支燃性のガスであることから、その添付文書や取扱説明書等で火気を近づけてはならない旨が記載されており、会員各社にて火気の取り扱いに関する注意喚起を実施いただいているところです。

厚生労働省では、同省ホームページで火気の取り扱いに関する注意喚起を行っており、JIMGAでも在宅酸素療法に関する講習会での火災事故関連講義およびパンフレット配布や動画配信等を行っています。

JIMGA在宅酸素部会では、厚生労働省、総務省消防庁、日本医療ガス学会、日本呼吸器障害者情報センターのご後援を得て、今年も火災事故が多くなるこの時期に「在宅酸素火災予防キャンペーン」を展開しています。

### キャンペーンポスター標語が決定しました

本活動の一環として火災予防をテーマに標語を患者関係者と在宅酸素部会員より募集し、多数の応募をいただきました。最優秀作品、優秀作品、入選作品を本年度のキャンペーンポスターに掲載しています。

2024年度選出標語

「やめようよ 酸素とタバコの 二刀流」  
白井大地さん（香川県）

本ポスターはキャンペーン期間中に患者や医療機関に配布されます。ポスター（PDF）は以下よりダウンロードが可能です。是非ご利用ください。

在宅酸素火災予防キャンペーンポスター（A4版）

<https://www.jimga.or.jp/document/?t=1212922045674e878fec4b0>

在宅酸素 火災予防 キャンペーン!!

最優秀作品  
やめようよ  
酸素とタバコの  
二刀流

火気を近づけると  
炎が大きくなり危険です

火災による事故原因  
※死197件、重傷13件

不明	38%	(42件)
喫煙	38%	(42件)
酸素とタバコを同時に吸う	17%	(19件)
その他	7%	(7件)

1. 携帯用酸素ボンベの取り扱いの注意  
2. 在宅酸素療法における火災取扱いの注意

2024年度ポスター

### 火気の取り扱いに関する注意喚起用資材について

火気の取り扱いに関する注意喚起等について、医療機関の主治医や関係する医療従事者が患者やその家族等に対して説明するためにご利用いただける資材をご紹介します。

【厚生労働省ホームページ】

在宅酸素療法における火気の取扱いについて 令和6年7月5日掲載

[https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000003m15\\_1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000003m15_1.html)

【JIMGA資料】

- ①注意喚起動画 「在宅酸素療法における火気取扱いの注意」

<https://www.youtube.com/watch?v=TrAucg9Xk60>

- ②注意喚起動画 「携帯用酸素ボンベの取扱い注意」

<https://www.youtube.com/watch?v=ECrp29ZEsf0>

- ③ヒヤリ・ハット事例集 「医療ガス消費者のためのヒヤリ・ハット事例集 在宅編」

(販売品のため有償です。会員限定のセット価格あり)

<https://www.jimga.or.jp/publication/books/index.php?c=002003&department=&format=>

- ④事例リーフレット

「在宅酸素療法を実施している患者居宅で発生した火災による重篤な健康被害の事例」

<https://www.jimga.or.jp/document/?t=1304188753674e8b0da19cb>

ご不明点は在宅酸素部会事務局 (E-mail: hot@jimga.or.jp) までお問合せください。

(医療専門委員会 在宅酸素部会 事務局)



注意喚起動画イメージ



「医療ガス消費者のためのヒヤリ・ハット事例集 在宅編」イメージ

## ウェブサイト掲載お知らせ一覧 —2024年10月15日~2024年12月15日掲載—

JIMGAウェブサイトでは、会員の皆様に向けた最新の情報をお知らせページにて掲載しています。2024年10月15日~2024年12月15日までに掲載したお知らせをまとめましたので、URLよりご覧ください。最新のお知らせはこちら→ <https://www.jimga.or.jp/news/>



- 2024.12.05 年末年始に港湾荷役が実施されないことに伴う対応について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1520>
- 2024.11.29 消費税のインボイス制度に関する周知等について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1519>
- 2024.11.21 ガスメディキーナに上原会長のインタビュー記事が掲載されました！  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1518>
- 2024.11.20 令和6年分の所得税の確定申告等について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1517>
- 2024.11.20 「医療安全推進週間」（11月21日~11月30日）の取組みについて ~「劇場版ドクターX」とのタイアップ~  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1516>
- 2024.11.18 下請取引の適正化について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1515>
- 2024.11.18 令和6年奥能登豪雨の影響を受けている下請中小企業との取引に関する配慮について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1514>
- 2024.11.14 呼吸ケア・リハビリテーション学会（名古屋）出展のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1513>
- 2024.11.08 <再掲載> 医療用酸素用一般複合容器の再検査期間延長について(一部改訂)  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1512>
- 2024.11.07 パートナーシップ構築宣言について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1511>
- 2024.11.06 第27回医療ガス学会学術大会のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1510>
- 2024.11.01 【気象庁連絡事項】 低気圧や前線による大雨について（第1報）  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1509>
- 2024.11.01 「医療用ガス&設備の自然災害対策の手引き」発売のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1507>

- 2024.11.01 2025年賀詞交歓会開催のお知らせ  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1505>
- 2024.10.31 JIMGAnews 第84号発行のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1506>
- 2024.10.28 溶接ニュースに上原会長の団体トップメッセージが掲載されました！  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1504>
- 2024.10.24 毒物及び劇物取締法施行規則の一部を改正する省令の施行について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1503>
- 2024.10.24 フリーランス・事業者間取引適正化等法の施行に向けた説明会等の開催について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1502>
- 2024.10.24 フリーランス・事業者間取引適正化等法の遵守徹底について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1491>
- 2024.10.21 令和6年度最低賃金額の改定等について  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1500>
- 2024.10.18 国際整合化参考文書「液化及び低温酸素用バルブの設計、製造、据付、操作及び保全」(改訂2版)発行のご案内  
<https://www.jimga.or.jp/news/detail.php?id=1499>



# 気ままに コラム

海の向こうでは大谷翔平選手が大活躍でチームを牽引し、ドジャースがワールドシリーズを制しました。日本のプロ野球では横浜DeNAベイスターズが勢いよく勝ち上がり日本一に輝きました。ベイスターズファンの皆様、26年ぶりの日本一おめでとうございます！！

さて、私の推しチームである「北海道日本ハムファイターズ」と言いますと、残念ながら今シーズンはリーグ2位の成績に終わりました。しかしながら、最後の最後までワクワクする新庄野球で楽しませてくれました。昨年、一昨年は“ぶっちぎり”の最下位であったことを思えば、大躍進です。

野球ファンの方はご存じかと思いますが、我がファイターズのホーム球場は札幌近郊の北広島市にある「エスコンフィールド北海道」です。2023年に開業したばかりの開閉式屋根付き天然芝の素晴らしい球場です。

開業前はアクセスの脆弱性から集客が心配されましたが、いざ開業してみると、野球の試合がない日でも天候を気にすることなく楽しめる北海道の一大観光スポットとなりました。これは球団も想定外だったようです。

北海道地域本部では昨年、同球場にて視察会を実施し、ファイターズガールの案内によるスタジアム見学や北海道電力のエネルギー関連設備見学、球場内の地ビール醸造所設備見学などを行うことができました。大変貴重な経験でした。

野球がお好きなかたも、そうでないかたも、北海道にお越しの際はぜひエスコンフィールド北海道にも足を運んでみてください。きっと非日常のワクワク感をお楽しみいただけることと思います。

ちなみに私のエスコンフィールド観戦時ファイターズの成績は、0勝4敗です（涙）  
（北海道地域本部 事務局 高橋 美枝）



エスコン外観



エスコン内観